

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4171200290
法人名	有限会社 風のふく丘
事業所名	グループホーム 風のふく丘三ヶ敷
訪問調査日	平成 19 年 9 月 6 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 15 日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171200290		
法人名	有限会社 風のふく丘		
事業所名	グループホーム 風のふく丘三ヶ敷		
所在地	佐賀県三養基郡基山町大字園部字三ヶ敷413番地2 (電話)0942-81-7814		
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7-18		
訪問調査日	平成19年9月6日	評価確定日	

【情報提供票より】(平成19年 8月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤	12 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 4.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 2階建ての1階部分		
------	-------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000~20,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	50,000円			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日当り 830円			

(4) 利用者の概要(9月 6日現在)

利用者人数	7 名	男性	2 名	女性	5 名
要介護1		名	要介護2	2	名
要介護3	5	名	要介護4		名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 78.5 歳	最低	68 歳	最高	86 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	丸山病院、きやま鹿毛病院、やよいがおか鹿毛病院、筑紫野歯科クリニック
---------	------------------------------------

山あいの静かな住宅地の端にある民家改修型のホームで、我家・家庭という風情がうかがえる。職員は、法人3施設のクロス勤務であるが、利用者ともよく馴染んでいる。職員は利用者のプライドや尊厳等を意識した対応をしている。地域との関係についても、良好な関係が築かれている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	申し送り簿に閲覧した職員の署名や印がなく、改善事項となったものも、閲覧後の各自の押印を徹底するなど、確実な伝達の仕組みへの取り組みを図っている。ケア計画の実践や評価の具体的な記入に向けた改善に取り組みとしては、出来るだけ具体的に記録するように努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全員で各項目の自己評価を行ったが、さまざまな意見・考えが出された。すぐに出来る改善については即実施、長期にわたるものは計画的に進めていくことを申し合わせた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	散歩や散策しやすいように施設周辺の道路整備について討議され、そのことを区長に申し入れるなど、運営推進会議の内容がサービスの質の向上に向けた取り組みにつながっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族訪問時や家族会等で意見・不満・苦情がないか常に問いかけ、何でも話してもらえるような雰囲気作りをしている。出された意見・要望等はミーティング等で検討・改善している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の一員として町内会に加入し、また、地域の役職者等で組織する運営推進会議も機能している。区長や隣保班長から地域の秋のくんちや敬老会への参加を誘われており、参加することを考えている。このことに加え地域の人が気軽に施設を訪ねていただけるような更なる取り組みも期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直すとともに、地域密着型サービスの意義を全職員で確認した理念を追加している。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時に理念を唱和したり、申し送り時やカンファレンスの時にも理念について触れ、話し合い、日々の意識・行動にそれを生かしている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として町内会に入っており、区長や隣保班長から秋のくんちや敬老会への参加も誘われている。	○	地域活動の積極的な参加に加え、ホームにも足を向けてもらえるような取り組みも期待したい。
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員がサービス評価の意義等を理解しており、全員で自己評価に取り組み、外部評価についても改善に向けた取り組みを行っている。	○	評価で出された課題についてはそれぞれ改善に努めているが、どのように改善し、結果はどうで、定着したか等を確認できるための改善計画の作成等も期待したい。
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議で出された意見のうち検討事項や懸案事項については、その取り組みの結果も報告し、意見を貰っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとは、通常の相談以外にもホーム便りを持参したり、顔を出したりして、施設の実情やケアサービスの取組を折に触れ話している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的にたよりを発行している。家族訪問時には行事の写真を見せたり、暮らしぶりについて報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時や家族会等で、常に問いかけ、何でも話してもらえよう雰囲気作りに努めている。出された意見や要望等はミーティングで話し合い、改善に繋げている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者と介護支援専門員以外の職員は法人の3施設のクロス勤務であるが、日ごろのコミュニケーションにより利用者のダメージを防ぐ配慮がされている。離職も少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所以外での研修(リーダー研修、介護研修等)には出来るだけ多くの職員が受講するようにしている。また、協力病院の院内研修(月に1回)にも全員で参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の3施設で情報交換や体験発表会等を行っている。また、関係団体のネットワークに加入し情報交換や交流を持つことで、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前面談で生活状態を出来るだけ把握し、また、体験利用をしてもらっている。本人・家族の求めていることや不安を理解するためにも、利用当初は出来るだけ回数多く家族に訪問してもらい、昼食やおやつを一緒にとって貰う等の工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	全職員が利用者は人生の先輩であると意識しており、日ごろから料理や畑作り等を教えてもらう場面が多い。また、電話が鳴っていることや来客訪問等を職員に知らせるなど共に過ごし支えあう関係が生まれている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で情報の多面的把握に努めている。会話・表情・行動等からその真意を推し量ったり、それとなく確認したりする等本人の希望・意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で得た本人や家族の希望・意向を反映させるようにしており、月例会議やカンファレンス等で全職員が意見を出し合って作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヶ月ごとに見直している。また、状態・状況の変化や本人・家族の要望に応じて随時の見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況や要望に応じて通院や外出、外泊等必要な支援は柔軟に対応しており、また、ターミナルケアも行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は本人・家族の希望に応じて対応している。原則は家族同行の受診であるが、不可能な場合は職員が代行するようにしている。それぞれのかかりつけ医とは良好な関係を持っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営規程や重要事項説明書に重度化し看取りが必要な場合の対応が明記されており、同意を得て、施設が対応しえる最大のケアについて説明を行っている。過去に1件の実績がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助等の声かけはさりげなく行われている、また、個人記録へは他の利用者の名前は記録されていないなど、全職員が人としての尊厳を重視し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、利用者は起床から消灯まで自由な時間を過ごしており、職員は一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえから調理、盛り付け、配膳、片付け等も利用者と一緒にいき、利用者と職員が同じテーブルで和やかに楽しく食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者本人・家族の協力と同意を得て、入浴曜日を決めている。入浴の時間やタイミング等は本人たちで自由に決め、楽しそうな入浴がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野でそれぞれその人の経験や知恵を発揮してもらっており、お礼の言葉も伝えている。また、そのための場面作りにも配慮している。中には自ら役割りを志願する方もあり誇りや自信につながっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設での外出行事のほか、その日の話の流れや思いつきで近くの公園に行ったり、散歩・散策したり、昼食を摂りに行ったりと車椅子の利用者も含めて外出がよく行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員による見守りを徹底し、利用者の外出の気配を察知した場合、それを止めるのではなく、さりげなく声を掛けたり、または一緒に同行するなどの対応がとられている。また、全職員が日中鍵を掛けることの弊害を理解しており、居室や玄関にかぎは掛けられていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員間ではシュミレーションによる訓練を機会あるごとに行い、利用者を交えた屋外避難訓練も行われている。最近、区長ともよくコミュニケーションが取れるようになり災害時の協力が得られるよう働きかけている。	○	施設だけの訓練、シュミレーション訓練に加え、消防署や地域住民の協力・参加を得ながらの定期的な訓練の実施も期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と栄養士がカロリーや栄養バランスを考えている。水分摂取量を最低1000ccを目標にペットボトルを活用して、また、お茶だけでなくコーヒーや紅茶等も用意するなど、状況に応じて飲みやすくしたりして提供している。残食料や摂取水分量はチェックされ大まかな把握がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には不快な音や臭いはない。玄関・食堂・トイレには季節の草花が活けられている。西日の強い食堂にはヨシズが掛けられている。全体的に五感や季節感を取り入れる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は持ち込み自由であり、タンスや枕、飾り物や写真、カレンダー等思い思いのものが持ち込まれ、中にはお位牌もあり、利用者の居心地のよさに配慮している。		